

第30号

2006年9月25日 発行

発行所 財団法人小山台

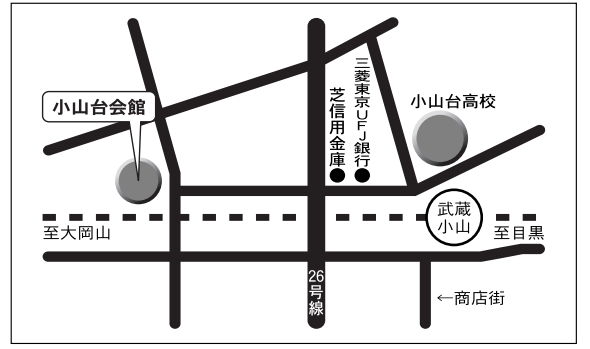
〒142-0062 東京都品川区小山4-11-12

TEL03(5721)6171 FAX03(5721)6173

発行人 理事長 大澤佳雄

編集人 事務局長 岸本博道

財団法人小山台 会報



変わる「小山台」と財団の活動



財団法人小山台
理事長
大澤 佳雄

この7月初め「武蔵小山」のあの懐かしいプラットフォームが消え地下に移設された。私たち小山台の卒業生の目には、プラットフォームから見える病院と校舎や駅前の踏切が鮮明に焼きついている。「不動前」から電車が地下にもぐり、そのまま地下の「武蔵小山」新駅で下車したときのある種の喪失感、まさに何ともいえないものがあつた。われわれのほうは喪失感と申し上げたが、沿線の住民にとっては積年の悲願の「達成充実感」であろうと思う。旧目蒲線の地下化はもう何年も前から構想があつたが、計画の確定から実現に数十年かかつたといわれる。いろいろな利害を調整しながら改良する、改善するのにいかに時間がかかるかの好例といえよう。

さて小泉内閣最後の国会も会期通りに終了したが「教育基本法の改定」や大きなお荷物の財政バランスの回復問題など、今後の日本の命運を左右する、本来ならば最優先の課題

はことごとく後継内閣にバトンタッチされることになった。バブル経済の崩壊以降、それまでの「右肩上がりの経済を支えてきた社会の仕組みのすべてが悪い」と魔女狩りのような総点検が行われてきた。しかし教育のような問題は、ソフト(中身)からハード(仕組み)までしっかりとした基盤が必要で、国がなにかを決めたからといって、革命的なスピードでは物事が変わっていくものではない。ジャパン・アズ・ナンバー・ワンの夢に酔って「ゆとり」を求めているうちに、わが国の大学教育水準は、OECD加盟諸国の中でほぼ最下位、世界の50番目近辺にまで落ち込んでしまっている。

このような危機感もあつて、教育の現場、小山台高校ではもう待たなして、大きな改革が進められている。一昨年から都の重点支援校に指定され、文武両道かつ進学率も高い小山台の復権を目指して、校長先生以下教職員、家庭そして何より生徒一人ひとりが頑張っている。今年の志望大学合格率は目を見張るものがあり、とりわけ現役の合格率が素晴らしかった。この変化は勉学の面だけではない。新聞の報道でもご承知の通り、野球部は東東京地区予選でシード校を破り4回戦ま

で駒を進めた。4月のプラスバンドの演奏会は多くの聴衆に感動を与えた。このような成果は小山台高校全体の活力が確実に復活しつつあることを物語っている。いま、目指すべきは知力、体力、情緒力(感性)をバランスよく兼ね備えた国際的に通用する開かれた人材・人格の育成であり、昔の「ガリ勉」一本やりの受験教育とは大いに異なるものであろう。

財団法人小山台は福川前理事長以下幹部の方々と、とりわけ事業部会の方々の献身的なご努力で、主要3事業(学校教育、社会教育、国際交流)もすっかり定着し、参加者、関係者からそれぞれに熱い期待を担う存在になっている。バブル崩壊後の政治が「小さな政府」を指向する中、当財団はこれからはますます期待される社会支援・教育活動のひとつの規範を提示しているといつてよいし、今小山台高校が志向している教育復興にも照準が合っているものと確信している。これまで支えてこられた幹部の方々のご努力に、あらためて厚く御礼を申し上げたい。

この6月にバトンを受け取らせて頂いた私も新陣容はまさに一丸となって、時間のかかる教育の再強化の問題を含め、開かれた社会貢献活動に取り組んで参りたいと存じますので、引き続き皆様の積極的なご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

英国事前研修への思い

第14回英国語学研修派遣リーダー
石井 絵里香



私にとって英国語学派遣のリーダーになることは4年間思い続けてきた夢です。高校2年生で派遣に参加して得た経験、人々との出会いは今日までの私の人生に大きく影響をもたらしてきました。「いつか必ずこの地にもどり自分の成長を確かめたい、そして今まで支えてくださった多くの先輩方にお返しをしたい」という気持ちで今日まで来ました。

そして実際に4ヶ月の事前研修を通し団員と共に入念に準備を重ね、ついにイギリスの地に立った今、リーダーという異なる立場にいる私には日々が新たな発見でいっぱいです。中でも驚かされるのは団員一人一人の日々の変化です。今の彼らの表情からはかつてないほどの自信と学ぶことに対する熱意が見て取れ、言葉は流暢に話せなくとも、懸命に相手の言うことを理解し、話し手に自分の思いを伝えようと努力する姿は、本当の意味でのコミュニケーション、“人と人との対話”を心から楽しんでいるように見えます。自身とは全く異なる文化・歴史・習俗をバックグラウンドにもつ若者と共と同じ教室で語らい、お互いの違いを認識し、その違いを楽しむ。その過程で知らず知らずのうちにこれまでの「個」としての自分から「日本人」としての自分、さらには世界の一構成員である「国際人」としての自分を意識し始める。この派遣で私自身が心から実感したこの気持ちは今年また20人の団員にいかなる形であれ残り、彼らの今後の人生に大きな影響を与えることでしょう。大人になりきらない彼らだからこそ持つ繊細で大胆な精神で、失敗を恐れることなく常に未知の世界に飛び込んでほしい。私が伝えたいこのメッセージが彼らの胸に届き、大きく成長して帰国日を迎えてくれればと心から願っています。

リーダーとして

第7回ドイツ交換派遣リーダー
鈴木 秀和



私は、4年前の第5回ドイツ交換留学で初めて海外へ行き、多くの経験をしましたが、帰国後の日本の景色、社会、自分の意識は、ドイツへ行く前とは大きく変化していることに気がつきました。この留学を体験して、自分が日本人であることを改めて自覚すると共に、同じ人間でも違う世界観があることに気がつきました。夫々が異なる環境、習慣、文化の影響を受けています。

相手のことを分かってもらうにはコミュニケーションで、会話力を身につけることや、相手の文化や歴史を学び、その背景に配慮しながら交流することが大切だと思います。本当のコミュニケーションとは相手を心から分かってもらうこと、この言葉は恩師から贈っていただいた大切な言葉です。人が人を分かってもらう場合、見た目や国籍・文化の違いが時には障害や問題になりますが、本当にそうでしょうか？そのひとつ前に、目の前にいる一人の人間とのやりとりが大切だと思います。

今回リーダーとして出発するに当たり、初めて行ったときのように胸がドキドキしています。9人の団員一人ひとりに出会えたことが嬉しく感謝しています。今回の交換留学で私が目指すものは人間交流と国際交流です。団員一人ひとりがパートナーとのコミュニケーションを大切にしてほしいと思います。また習慣や文化の違いを知り、違いを楽しみ、違いを学んで来てほしいと思います。そして、本当のコミュニケーション、相手を心から分かってもらうこと、これを大切にしたいと思います。

団員全員の無事を心掛けながら有意義な3週間を過ごし、貴重な体験と大きな成果を皆様にご報告したいと思います。

当財団の国際交流事業は開始後14年目となる。本年度の派遣である英国ボーンマスの語学学校への派遣と、ドイツのベルリンへの交換派遣(派遣と受入を毎

年交互に行うもので今年(派遣の年)のそれぞれのリーダーである石井絵里香さんと鈴木秀和さんが、出発前にそれぞれの決意を語ったものです。

英国との交換交流事業

ブリッドポート・ユースセンターおよびミドルズブロウ市教育局との交換交流を行っているが、今年を受入の年であった。昨年英国でお世話になった家庭の学生を、今年はその家庭が英国の学生を受け入れるもので、今年、それぞれのリーダーを含めて合計13名を受け入れたが、その概要を報告する。

***8月1日**

朝成田空港着、財団から出迎えて昼過ぎに財団到着。簡単なオリエンテーションを行った後、出迎いのファミリーに連れられて、各ホームステイ先に向かった。

***8月2日**

夕刻から財団で、ファミリーのお母様達の手作りの料理によるウェルカムパーティーが行われた。小山台高校の高橋校長他関係者も多数出席して歓迎した。

***8月3日**

海外派遣生経験者で組織するBRANCHの会の企画で、城南島海浜公園でバーベキュー・スポーツ、花火大会等で楽しんだ。

***8月4日**

小山台高校を訪問して、小山台高校生が茶道、剣道、その他の班が中心となって歓迎し、スポーツ、ゲーム等で交流を楽しんだ。

***8月5日・6日**

ファミリーデーとして交流を深めた。

***8月7日**

4日間の関西・広島の見学に出発し、奈良友の会の皆様のご案内で、保津川トロッコ列車、嵐山、金閣寺等を見学し、奈良で宿泊した。

***8月8日**

前日同様奈良友の会の皆様のご案内で、法隆

寺・東大寺等を見学した後、墨工房で墨作りを体験し、各自の名前を漢字やカタカナで書いて楽しんで、奈良で宿泊した。

***8月9日**

広島に向かい、宮島・厳島神社等を見学し、夕食は広島のお好み焼を楽しんだ後、広島で宿泊した。

***8月10日**

平和記念資料館・平和公園・原爆ドームを見学した後、帰京した。

***8月11日～15日**

ファミリーデーとして交流を深めた。

***8月16日～17日**

奥多摩の平山キャンプ場で、スポーツ、ゲーム、バーベキュー、花火大会等を楽しんだ後、小河内ダムを見学して、帰京した。

***8月18日**

ファミリーデーとして交流を深めた。

***8月19日**

午後、日英学生による評価・反省会を行った後、夕刻は財団のホールで日英学生、ファミリー、関係者多数によるさよならパーティーを行った。高橋校長、英国リーダー等の挨拶の後、日英学生によるアトラクション等で大いに盛り上がった。

***8月20日**

ファミリーデーとして交流を深めた。

***8月21日**

朝、日暮里から成田空港へ向かい、涙の別れを惜しみ、再会を誓い合った。

***8月27日**

受入家庭による評価・反省会を行った。今年を受入も無事終了したが、これも関係者特に受入家庭の皆様のご協力の賜物と深く感謝したい。日英学生や受入家庭による評価・反省会の意見、その他関係者の意見を参考にして、交換交流プログラムをよりすばらしいものに発展させていきたいと思う。



ベルリン



キングズスクール (ボーンマス)



小山台デー



関西旅行 (広島)

平成18年度 海外交流事業参加者

英国語学研修派遣団 (21名)

加藤 由香里	小山台高校全1	森田 桂 伍	小山台高校全1
菅野 瑛 美	〃 全1	黒川 遼	〃 全1
中分 亜 子	〃 全1	小宮山 真 澄	〃 定3
松尾 一 志	〃 全1	山口 玲 奈	〃 全2
平澤 貴 大	〃 全1	佐野 裕 子	慶應義塾大2
尾島 芽 衣	〃 全1	渡辺 真悠子	学習院大3
中元 智 晶	〃 全1	竹大 賢 一	立教大2
工藤 桃 枝	〃 全1	中部 文 子	お茶ノ水大2
設楽 幸 愛	〃 全1	百瀬 香	法政大3
中浦 綾	〃 全1	○石井 絵里香	早稲田大3
北野 雅 浩	〃 全1		

○はリーダー

ドイツ交換留学派遣団 (10名)

寺岡 杏 菜	小山台高校全1	國吉 恵 以	小山台高校全1
植松 史 帆	〃 全1	山田 寛 子	〃 定3
黒田 早 彩	〃 全1	山川 芳 行	〃 定3
小松 ちはる	〃 全1	龍 初 音	明治学院大3
車戸 柊 子	〃 全1	○鈴木 秀 和	立正大4

○はリーダー

英国ブリッドポート交換留学受入学生・受入家庭 (6名)

(受入学生)	(受入家庭)	
○Ray Michael	荒牧 芽 生	(17年度ブリッドポート派遣)
Forsey Sarah	武田 阿 弓	〃
Onswerth Naomi	道明 祥 江	〃
Bevis Zoe	沢松 知 慧	(15年度ミドルズブロウ派遣)
Lathey James	荒牧 咲 貴	(17年度ブリッドポート派遣)
Lathey Philip	石川 結梨奈	(16年度ドイツ派遣)

○はリーダー

英国ミドルズブロウ交換留学受入学生・受入家庭 (7名)

(受入学生)	(受入家庭)	
Gibson Paul	今田 憶 人	(17年度ブリッドポート派遣)
Kielty Michael	須藤 景 大	(17年度ミドルズブロウ派遣)
Jorgenson Danielle	西山 佳 那	〃
Ryan Barry	原 辰 也	〃
Morgan Rebecca	渡辺 宏 美	〃
Tahkaewn Kwan	山口 あゆみ	〃
Gibson John	青木 満	(17年度ボーンマス派遣)

ドイツ高校生1名が小山台高校1年に短期留学

交換留学提携校のベルリンのカニジウス校から、男子生徒Spiegel Christoph君が、9月から約3ヵ月間、今年英国の生徒を受け入れていただいた沢松さん宅のご好意でホームステイしながら、小山台高校1年に短期留学して国際親善に寄与しています。

「寺子屋小山台」開講のお知らせ

開講の目的

若手社会人（小山台高校全日制・定時制卒業生）を対象に、講師を招き、月一回の頻度で半年間、開催します。
この講座を通じて、次世代を担う人材育成を目的とします。
形式は、各界を代表するリーダーを円卓形式で囲み、政治、経済から人間・自然まで森羅万象を素材に議論を深めます。トラディショナルリーダーから直接の薫陶を得ながら、同世代の仲間と切磋琢磨することで、天下に冠たるニューリーダーを小山台の地から輩出したい、と考えます。

◆開講期間 2006年8月～2007年2月

◆日 程 期間中、毎月第二土曜14時～17時ぐらいまで
(講義1時間、ディスカッション1～2時間)

◆講座・講師紹介 (講師の都合により変更の可能性あり)

日 程	テ ー マ	講 師 (略歴)
プレ講座	「自分が源泉」というあり方	シナジー・スペース(株) 代表取締役 鈴木 博 氏 日本を代表するヒューマングロース研修の第一人者
第一回	日本の国際貢献 ～人間の安全保障～	元JICA総裁、外務省参与、国連改革担当大使 藤田 公郎 氏 オランダ王国大使、インドネシア共和国大使を歴任
第二回	リーダーシップ論	(株)QUICK参与 (財)波多野ファミリスクール理事長 小島 章伸 氏 元日本経済新聞社取締役編集局長
第三回	青少年の問題について	警視庁少年育成課長を予定
第四回	中国から見た日本	東洋学園大学教授 朱 建栄 氏 多角的な情報に基づく現代中国研究で知られる
第五回	経済トピックス (予定)	みずほ証券(株) 顧問 大澤 佳雄 氏 (予定) 前みずほ証券(株) 社長、菊桜会会長、財団小山台理事長
第六回	日本論 ～日本の強みと弱みを検証する～	(財)機械産業記念事業財団会長 福川 伸次 氏 元通商産業事務次官、元電通総研研究所長

☆尚、本年度の受講者は公募その他ですすでに決定しています。

平成17年度 事業報告

平成17年度の日本経済は堅調な回復を続けたものの、世界的な低金利の中で、日本の長期金利も低水準が続き、収入は更に減少したが、公益性や効果等を配慮しながら公益事業に積極展開を行った。実施した事業の主な概要は下記の通りである。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

- イ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生7名を3週間ホームステイで派遣した。
- ロ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生7名を3週間ホームステイで派遣した。
- ハ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学
今年度は受入の年で、青少年とリーダー10名および引率者2名、合計12名を3週間ホームステイで受入れた。
- ニ. 英国語学研修派遣
高校生・大学生21名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣した。
- ホ. 青少年国際交流推進派遣
ドイツベルリン市およびキール市に、学校や社会施設等の訪問や教育関係者との意見交換等の交流のため、高校・中学の教員を中心に7名派遣した。
- ヘ. ドイツ教育派遣団の受入
ドイツの教員を中心に14名を受入れて、小中高で学校見学・授業参観・教員間の交流、東京都教職員研修センター訪問等を通じて日独教育関係者の交流を行った。

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を図り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、下記の組織に援助した。

- イ. 海外派遣経験者の会
- ロ. 受入家庭経験者の会

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する学生に対して、その費用の一部を助成した。

④国際交流他団体助成

- イ. (財)日本教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成した。
- ロ. 交換留学提携校、提携団体への寄付
- ハ. その他

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

次のテーマで9回実施した。

- 第1回 海外旅行のすすめ、ベトナム観光事情など
- 第2回 思春期の子を持つ父母へ
- 第3回 お似合いの色は？
- 第4回 歴史散歩 (1) 四谷北寺町から富久町・余丁町文学散歩
- 第5回 歴史散歩 (2) 八丁堀界限・歴史上のおなじみの人物
- 第6回 飛行機よもやま話
- 第7回 音楽レクチャーコンサート (1) オーボエ
- 第8回 モーツアルトのオペラの世界
- 第9回 音楽レクチャーコンサート (2) 琵琶・笛

②都立小山台高校プラスバンドの都民公開コンサートの費用を助成した。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

- イ. 進路、学力向上関係
- ロ. 学校PR関係
- ハ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係
- ニ. 夏季合宿、班活動関係
- ホ. 講習会、コーチ指導関係
- ヘ. その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

- イ. 一般奨学金
都立高校生35名に年間15万円、合計525万円を給付した。
- ロ. 緊急奨学金
緊急に援助が必要になった生徒2名にイ. と同様に給付した。

4. その他

①広報

- イ. 会報を年1回9月に発行した。
- ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

③その他

平成18年度 事業計画

平成18年度も超低金利が続いているが、景気回復が続き金利上昇の動きが見られるので若干の収入の増加を期待している。一方、事業費予算は全事業を見直した上で重点配分を心掛けた。実施を計画している事業の概要は下記の通りである。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

- イ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生10名を3週間ホームステイで派遣する。
- ロ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学
今年度は受入の年で、青少年6名を3週間ホームステイで受入れる。
- ハ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学
今年度は受入の年で、青少年7名を3週間ホームステイで受入れる。
- ニ. 英国語学研修派遣
高校生・大学生21名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣する。
- ホ. アジア地域への派遣
台湾へ大学生を7名程度、7～10日間派遣する方向で準備を進めている。

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を図り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、下記の組織に援助する。

- イ. 海外派遣経験者の会
- ロ. 受入家庭経験者の会

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する生徒・学生に対して、その費用の一部を助成する。

④国際交流他団体助成

- イ. (財)国際教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成
- ロ. 交換交流提携校への寄付

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

10回実施する。その内容は次ページに記載の通り

②新規事業として、ニューリーダー育成を目的とした「寺子屋小山台」を平成18年度下期からスタートする。その内容はこのページに記載の通り

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

- イ. 進路、学力向上関係
- ロ. 学校PR関係
- ハ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係
- ニ. 夏季合宿、班活動関係
- ホ. 講習会、コーチ指導関係
- ヘ. その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

- イ. 一般奨学金
都立高校生45名に年間15万円、合計675万円を給付する。
- ロ. 緊急奨学金
緊急に援助が必要になった生徒に対して、5名の枠内でイ. と同様に給付する。

4. その他

①広報

- イ. 会報を年1回9月に発行する。
- ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

③その他

伝統というものの素晴らしさ



都立小山台高等学校
校長

高橋 ヨシ子

昨年5月、保護者から一通のメールが届いた。「合唱コンクールの課題曲を歓喜の歌にするか検討中と聞いたが、どうか校歌を歌う伝統を止めないでください。」
財団小山台を介してドイツの高校からプラスバンド班との交換演奏の申し出があり、9月の文化祭に招待することにした。ところが、35年間続いた合唱コンクールの課題曲を「校歌」から「歓喜の歌」に変え、全員合唱で交流を深めたいという意見が出された。この動きに生徒は悩み、教員も迷った。結局は例年どおり校歌を課題曲に第36回のコンクールは充実した中で終えた。今年度の第37回も生徒の素晴らしい質の高い合唱が、その努力が、多くの人々に感動と共感を与えた。79歳の祖母が高校3年の孫の最後の合唱コンクールに参加し、その感激を「高校生の歌からもらったパワー」と題して投書し、新聞に載った。間違いなく小山台のことである。生徒もまた保護者も小山台の行事を大事にしている証であり、感慨深い。

ところで、今年度は公募教員を含め14名の新しい教員と依然として女子に人気の高い新入生を迎え、1学期は過ぎた。中学校とは異なり勉強と班活動等の両立に戸惑い、苦しみながらも着実に小山台生として取り組む姿に高校生らしさを見出す。財団からの支援に感謝しても感謝しきれない思いであるが、今年度の主な取組を述べたい。

一つは「土曜授業の拡充」である。時間をかければ本校の生徒の力は確実に伸ばせる、という教員の経験から導き出された強い信念を実現した。昨年度都教委に認められて新規に導入し、今年度は年22回に拡充し、学校週五日制で不足した授業時間は何とか補うことができた。

二つは、「きめ細かな学習指導体制の確立」である。2・3年の英語2単位「ライティング」と、数学2年6単位の習熟度別学習を実施し、これを更に放課後や夏季・冬季・春季休業日の補習、「冬季勉強合宿」で補完する体制をつくりあげた。今夏も、53講座の補習・補講を開講し、「授業で真剣勝負」を合言葉に先生方の取組が行われ、生徒たちを鍛えようとしている。校長として習熟度別学習を拡充したいが、教室がない。根本の悩みである。冷房化を含め環境整備は本校にとって大きな課題でもある。

今春の進学実績では、生徒のたゆまぬ努力と学校の指導体制によって、国公立大・難関私立大合格者

が、実に16年ぶりという成果を上げることができた。折りしも今年度が「東京都重点支援校」指定の最終年度である。都教委が下した「小山台の経営診断」では、学力・進学実績の向上、生活指導のために、なお一層強固な教員組織を作り、一人の教員による教室での巧みな授業展開のみならず、教育実践に向け全教員が質的向上を図るよう期待された。

一方、創立71周年目を迎える定時制にも変化があった。例年になく新入生を多く迎え、不登校を克服しながら努力する姿が見られる。8月、全国定通バドミントン大会で東京都代表に選ばれた。特筆すべきことであり、このことが他の生徒に大いなる刺激となつてほしいと願う。

芭蕉に「不易と流行」という名言がある。臨時教育審議会答申で使われて以来、やや流行に視点が動く感がある。しかし教育において重要なのは「不易」。生徒の学力をしっかりと身につけること。生徒を心豊かな人間に育てること。これに尽きる。本校では、伝統的に学習を核にしつつ班活動にも学校行事にも力を発揮させているが、これが「小山台の不易」である。

今年6月、本校にとって辛い、悲しいことに遭遇した。2年市川大輔君のエレベーター事故死である。今、野球班をはじめ、悲しみを乗り越え、懸命に努力しているところである。着任4年目。生徒の確かな成長を願い、保護者の声に耳を傾けながら、教職員の叡智と努力を結集させ、課題解決への歩みを更に進める覚悟である。今後とも、本校への変わらぬご支援とご協力をお願いしたい。

平成18年度 公開文化講座のご案内

*実施済、締切済のもの

- ① 家族の健康を守るバランスのとれた食生活……講師 飯塚 律子
- ② 敬語のケイコはいかが？……講師 秋山 隆
- ③ 似合う色・役立つ色……講師 青木みどり
- ④ ご先祖は何代先までわかるか……講師 武田 光弘
- ⑤ 歴史散歩(1) 両国から鳥越神社……講師 手島宗太郎
- ⑥ 歴史散歩(2) 浅草寺町散策……講師 手島宗太郎

*現在募集中のもの

- ⑦ 11月11日[土] イキイキ音楽療法 一 明治・大正・昭和の歌で明るく元気に若返る…講師 音楽療法専門家 田沢 弘子
- ⑧ 11月25日[土] レクチャー・コンサート ー ピアノとフルート ー ……講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造 出演者 松下 倫士 笠井真由美
- ⑨ 1月27日[土] 昨今の離婚と相続 ……講師 弁護士 増田 次郎
- ⑩ 2月24日[土] レクチャー・コンサート 昂(すばる)21弦楽四重奏団 ……講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造 出演者 三又 治彦 他

平成18年度は公開文化講座は10回計画しましたが既に実施済、締切済のものもありますが下記の内⑦～⑩は現在も募集中です。詳細は財団にお問い合わせください。

(場所 小山台会館、14:00から)

平成18年度 役員・評議員・委員・事務局一覧

平成18年6月11日に全員任期満了になり、同日開催の理事会評議員会で下記の方が選任されました。(事務局は留任です) (○は委員長・部長 ○は副委員長・副部長)

役員		評議員		運営委員会	国際交流事業部会	学校教育事業部会	社会教育事業部会	事務局
理事長 大澤 佳雄	理事 佐藤 洋子	大原 一男	黒川 泰一	◎大澤 佳雄	◎大橋 学	◎佐久間和枝	◎近藤 和子	局長 岸本 博道
副理事長 高橋 ヨシ子	〃 関 三以子	深川 重治	武田 雄一	○高橋 ヨシ子	○佐々木千晶	○佐藤 友久	○河辺 清司	次長 松本 功次
理事 清水 仁	〃 佐藤 友久	高木 克	有田 聡	○杉山 元	○武田 雄一	○並木 洋之	○井上菜穂子	局長 西尾由紀子
〃 下河原五郎	〃 並木 洋之	大竹 康夫	小林 俊樹	増田 次郎	荒井 隼人	隅田 宏之	〃 梶谷 桂子	〃 黒田 賢子
〃 峯岸 誠	〃 阿久津友子	上野由美子	片山エイ子	大橋 学	御堂裕実子	片山エイ子	中村 修	
〃 大橋 学	〃 杉山 元	森田 和枝	鶴岡 正敏	大川 洋二	和久田博子	木内 清一	森部 和彦	
〃 大川 洋二	監事 飯塚 洸子	吉野 光久	土井 信行	杉原 民夫	土井 信行	小佐田和代	増田 恵	
〃 杉原 民夫	〃 中村 順洋	工藤 長男	小佐田和代	武田 雄一	志賀由希江	関 三以子	多田 良子	
〃 保科 正一	〃 野田 悌二	斎藤 健二	中村くるみ	近藤 和子	上野由美子	伊藤 利一	保科 正一	
		平松 亨	片嶋 啓子	保科 正一	中村くるみ	荻原 章徳	吉田まり子	
		田島 達也	伊藤 利一		小宮山智恵子	雨海 博英	月村 麻子	
		下村 實	荻原 章徳		島田 博美	佐良土道子		
		佐久間和枝	雨海 博英		松木 丈浩			
		石川 達雄	佐良土道子		吉澤亜希子			
		中村 修	吉川 幸栄		沖田 一郎			

貸借対照表

平成18年3月31日 現在 (単位：千円)

〈資産の部〉		〈負債・正味財産の部〉	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	61,218	負債合計	11,185
預貯金	61,218	流動負債合計	253
固定資産合計	7,482,148	源泉税等預り金	253
基本財産合計	7,265,787	固定負債合計	10,932
有価証券	6,230,310	退職給与引当金	10,932
預貯金	58,686	正味財産合計	7,532,181
土地	654,650	基本財産	7,265,787
建物	401,137	その他の財産	266,394
建物の減価償却累計額	▲78,996	事業拡大積立金	200,000
その他の固定資産合計	216,361	その他	66,394
有価証券	200,000		
預貯金	10,932		
器具・備品	27,478		
器具・備品の減価償却累計額	▲22,049		
資産合計	7,543,366	負債・正味財産合計	7,543,366

正味財産増減計算書

自平成17年4月1日 至平成18年3月31日 (単位：千円)

〈増加原因の部〉		減少原因の部	
科目	金額	科目	金額
基本財産運用収入	87,417	事業費	63,114
運用財産運用収入	2,641	管理費	50,114
負担金収入	5,610	減価償却引当金繰入額	14,609
退職給与引当金取崩収入	2,059	退職給与引当金繰入額	1,433
雑収入	2,524		
合計	100,251	合計	129,270
当期正味財産減少額	29,019		
前期繰越正味財産額	7,561,200		
期末正味財産合計額	7,532,181		

福川さんから大澤さんに 理事長が交代しました

平成9年6月に理事長に就任した福川伸次さんは、3期9年間経過して平成18年6月に任期満了で退任しました。この間平成11年11月には念願の小山台会館が竣工し、平成15年には財団創立40周年を迎えることができました。超低金利の困難な環境下ではありましたが、国際交流事業、社会教育事業、学校教育事業を中心に多彩な事業展開を行い、健全な発展を遂げることができました。

1ページに記載の通り、新理事長に大澤佳雄さんが就任しました。大澤さんはみずほ証券の社長を退任し、現在顧問です。新公益法人三法も成立し、財団法人を取り巻く環境は大きく変わりますが、当財団もこれに対応していかなければなりません。大澤新理事長を中心にして、次の大きな飛躍に向けて更なる努力をする覚悟ですので、今後も皆様のご支援・ご協力をお願いします。

編集後記

新理事長就任と同時に理事、監事、評議員も相当数交代して、新体制が動き出した。キーワードは財団の「世代交代」と言える。

中でも本年度からスタートする、「寺子屋小山台」はニューリーダーの育成を目指してハイレベルな講師陣のもとで、優れた人材の輩出を期している。財団にとって将来楽しみな企画が、実現したことを喜びたい。

また、国際交流の一環として、台湾へ短期留学が始まる。これまでのヨーロッパ中心の交流に加えて、アジアの一員としての視点から、何をつかんでくるか、大いに期待し、今後に繋げていきたいものである。

(常勤理事 杉山 元)